

「とっとり評判記」

第16話

なんでも

鳥取温泉の起源



「鳥取温泉碑」(鳥取市吉方温泉)

やまびこ博士：ここは鳥取市の袋川沿い。昭和時代の町の雰囲気が残っていて、なんとなく懐かしい気がするね。

こだまちゃん：博士の小さい頃の鳥取の町は、こんな感じだったのかなあ。

やまびこ博士：この辺りは、鳥取大震災の被害は大きかったものの、鳥取大火のときは被災を免れた地域だ。だから、ある程度昔の姿を偲ぶことができるんだよ。

こだまちゃん：そういえば9月は鳥取大震災(昭和18年9月10日)の起きた月ですね。今日はそのお話？

やまびこ博士：いやいや、地震の話は長くなるから、また今度。今日は、これを見に来たんだ。

こだまちゃん：これって、この石碑ですか？

やまびこ博士：そうだよ。これは、鳥取温泉発見の記念碑なんだ。

こだまちゃん：えー、そうなの？

やまびこ博士：現在の永楽温泉町・末広温泉町を中心とする鳥取温泉の歴史は意外に新しい。最初に吉方付近で温泉が発見されたのは明治30年頃といわれているし、この石碑に名前をとどめる池内源六いけうちげんろくという

人が組合組織を作って温泉を運営しはじめたのは明治38年のことだ。

こだまちゃん：ふうん。それが今の温泉街のルーツなの？

やまびこ博士：こうして発見された温泉が鳥取の名物のひとつになったのは、山陰線の開通で湯治客が増えたのと、大正から昭和はじめにかけて、観光資源として整備されたからなんだ。よしむらきんじ吉村欽二という人が私費を投じて末広通りとその周辺の泉源を整備(大正12年)したことも大きい。吉村さんは、永楽通りの整備(大正14年)でも中心的な役割を果たした人だ。

こだまちゃん：いろいろな人の努力で、温泉の町・鳥取ができたのね。

やまびこ博士：年間50万人もの観光客がやってきたこともある(昭和50年)そうだ。

こだまちゃん：すごーい！

やまびこ博士：現在はそこまでの来訪者はいないし、昔の温泉情緒もずいぶん薄れてきたけれど、鳥取温泉が大事な宝物であることに変わりはない。

こだまちゃん：ささやかだけど、この石碑は鳥取の人の温泉を大切に思う気持ちのあらわれなのね。

【佐々木孝文(鳥取市歴史博物館学芸員)】